

バイオネーターを用いた咬合誘導

○山崎要一, 早崎治明, 石井光治,
金本大成, 有馬克子, 中田 稔
九大・歯・小児歯

成長途上にある小児では、顎口腔領域の発達をより正常な方向へ育成することにより、咬合誘導の目標である健全な永久歯列による良好な咬合状態を得ることができると考えられる。

機能的顎矯正装置は、上下顎骨の位置異常や歯列の異常、口腔習癖などを改善し、顎口腔系の正常な発育を促進する働きのある装置で、その中ではAndresen-Häuplのアクチベーターがよく知られている装置である。この装置からは、Fränkelの装置やBimlerの装置など、種々の改良された装置が派生しており、Baltersのバイオネーターもその一種である。

バイオネーターは、AngleのⅡ級咬合や過蓋咬合、あるいはⅢ級咬合などの咬合異常の改善に有効であり、また、アクチベーターに比べるとレジン床部が小さく、口蓋前方部の床もないため違和感が少なく、Fränkelの装置などに比較して破損しにくいなどの利点がある。

演者らはこの装置を使用して、下顎の後退を伴う症例や過蓋傾向のある症例、あるいは若年者の顎関節円板前方転位症例に対する咬合誘導処置を行っており、良好な治療結果を得ている。

今回、バイオネーターの特徴について説明を行うとともに、この装置を使用して咬合誘導を行った症例の経過を呈示し、治療前後の歯列骨格系の変化について検討を行う。

当医院に於ける筋機能訓練（MFT）—個人別メニューと母親用プログラム—の評価と考察

友重文子, 畑原美和, 有田信一
ありた小児歯科医院（長崎）

小児歯科では比較的、低年齢の筋機能訓練（MFT）を行うことが多い。そのために子供にMFTの意義やトレーニング内容を伝えることが困難な事が多い。また、筋機能訓練は家庭での練習が占める割合が多いため、家庭での協力者の存在が必要である。

そこで、私たちは1)子供の舌癖の特性に合わせた個人別メニューの作成 2)子供の生活に合わせたトレーニングスケジュールの作成 3)家庭での指導用マニュアル という特徴を取り入れた当医院のMFTシステムを第8回小児歯科学会九州地方会に報告した。

その後、当医院ではこのシステムに沿って、MFTを行ってきた。

そこで、今回、従来のMFTと当医院のMFTシステムを指導効果、子供と母親のMFTに対する認識度等を比較、検討したところ、低年齢児の指導方法としては有効であったので、報告する。